
我輩はブン太である。

美花

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

我輩はブン太である。

【Nコード】

N5267B

【作者名】

美花

【あらすじ】

ある日ある家で飼われているネコの、平和な一日。

我輩は猫である。

：いや、あの有名な某作家の話をしようとしたんじゃないです、すみません。

しかし嘘はついていない。

我輩はこの辺り一帯のボスを仕切る、トラ猫のブン太である。

弱小な子猫時代からここまでのしあがるのはかなり苦労したが、最後の前ボスとの戦いで受けた深い傷は我輩の誇りであり勲章である。

弱い者イジメをする悪猫達を見かけると、左頬に受けた傷跡がうずくわ!!!!!!

いや、熱くなりすぎた。
すまぬ。

『ブンちゃん、また縁側で日向ぼっこしてるの？気持ちいいのか？』

む、今年10才になる末っ子のみゆきが近づいてきた…。

や…やめろ！！！！！

頭を撫でるな、首まわりを搔くな！！！！足腰が立たなく……
ふにゃあああ〜ゴロゴロゴロ

『みゆき〜そろそろ出かけるわよ〜』

『はい！！じゃあブンちゃん、お留守番よろしくね』

ふう、やっと解放された…。

みゆきめ、この我輩を一瞬でひれ伏させるとはボスになれる素質を持っているな。

よろしい、将来が楽しみだ。

この心優しいボスは、家族の将来の有望性についても考えなくてはいけないのだ。

やれやれ頂点に立つとは難しい。

にやああああ！！！！！！

む！！これは若い雌猫の叫び！！

今我輩が助けにいくぞ！！！！

我輩は留守番を頼まれていたことも忘れて縁側から飛び出した。
いや、しかし若い雌猫を救う為だ。致し方あるまい。

けっして、若い雌猫だからだと言うわけではないぞ。

道路の前に出ると、雌猫に迫っている黒い雄猫がいた。目付きが鋭く悪そうだ。

かわって雌猫の方を見ると、真っ白でキレイな毛並にブルーの瞳だ。

：

しぎやああああ！！！！！！！！

（貴様ああ！！！！その美しいレディから前足を退けろおおお！！！！！！！！）

我輩が凄い勢いで走り寄ると、黒い悪ブタボケ猫は驚いて逃げ出した。

逃がすかああああ！！！！！！

前足嗅がせろおおお！！！！！！！！

我輩も負けじと黒猫を追い掛けた。

いや、正義の為だ。

けっして黒い感情などない。

そしてしばらく追いつけた所、足が疲れてヨロヨロになった黒猫は石につまづいて盛大にこけた。

チャンスとばかりに我輩は黒猫に爪を立て叩きのめし、ヤツの前足をマタタビのように嗅ぎ、やっと解放してやった。

うむ、これでいい。

頂点にいる立場上、妥協を許すわけにはいかないのだ。許せ黒猫よ。

さて帰ろうと回れ右したところ、我輩は固まった。

ココは、どこだ？

見たこともない住宅街。歩いている人間も猫も顔見知りはいない。

我輩は血の毛、いや、気が引いた。

どうやら迷ってしまったようだ。

もう辺りは薄暗い。

晩御飯時なのだろう、周りの家からヨダレが垂れそうな香りが漂ってくる。

く、万事休すか…。

いつも作ってくれる母親のネコマンマを思い出す。

猫舌の我輩に気を使って温目に作られており、我輩の大好きな魚

の切り身や蟹のカマボコなどが混ぜ合わせてあるのだ……。
い、いかん。涙どころかヨダレまで垂れてきた。

これでは我輩のクールなイメージが台無しだ!!!

早く家に帰らなくては…

しかしどうやって…

む?!

今、みゆきの声が聞こえた気がするぞ!!!

『……………太あああ!!!!!!』

間違いない!!!

こっちだ!!!

こっちの方向だ！……！！！！

『ああああ！！ブン太！！もうどこ行ってたの？心配したんだよ？』

み…

みやあああああゝゝ！！……！！

我輩はみゆきに飛びかかった。

会いたかった……！！

会いたかったぞみゆき……！！

『もう、しょうもない子だなぁ〜お家帰ろうね』

そう言ってみゆきは我輩を抱えたまま歩きだした。

ま、待て、みゆき。

我輩はもうそんなに子供ではない。一人で歩けるのだ。

こんな姿を近所の子分猫達に見られては、ボスの威厳が無くなるのだ。

う、しかし、何と優しい抱き方をするのだ…。

眠くなって……しまうでは……ないか……にゃ……

『あれ、寝ちゃった』

ブン太の鼻息で、鼻がプスプスいつている

『可愛いなあ、ずっといつまでも一緒にいてね!! ブン太♪』

みゆきは幸せそうに笑った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5267b/>

我輩はブン太である。

2010年11月20日15時09分発行